京都薬科大学　薬学部　薬学科（指定校推薦）
６６期

私は京都薬科大学に指定校推薦で入学しました。この学校は 6 年制の薬学部のみの単科大学です。ここではこの学校を選んだ理由と私がどのように高校生活を送ってきたかを書こうと思います。薬学部を視野に入れている人や推薦入試を考えている人を中心に少しでも参考になれば幸いです。

私が志望校を決めたのは高校１年生の夏頃です。幼いころから薬剤師になることが夢だったため、もともと薬学部へ進学することは決めていました。そこから志望校を探す上で私が参考にしたのは国家試験の合格率とストレート進学率の高さ、卒業生の人数や就職先です。京都薬科大学は合格率と進学率が関西で常に上位に入っており、今年で１４０周年を迎えます。また 1 学年に 400 人弱が在籍し、毎年多数の卒業生が病院、製薬会社、調剤薬局、ドラッグストアなどに就職しています。OB・OG さんが多いと、様々な就職先の情報を聞くことができ、就職時に自分の理想の進路を決める手助けになると思いました。これらの理由から私は第 1 志望にしました。その後進路情報が載ったこの冊子が配られ、指定校推薦がある事を知り、出願条件を確認しました。

高 1 の時点で志望校を決め、推薦の条件も把握しているとなると充分に準備期間がとれ、余裕をもった 3 年間を過ごせると思っていましたが、真剣に受験を意識していなかった 1 年生の時の評定は悪く、この時点で推薦入試を諦めそうになりました。ですが、やはり受験できる機会は 1 回でも多い方が良い、と気持ちを入れ替えて 2 年生からは成績を持ち直すことができました。1 年生の頃と変わった事は期末テストに対する勉強の時間を増やした事と、小テストやレポート等の課題の内容、提出日を把握し、計画的に取り組むようになった事です。もちろん忘れていて前日に詰め込む時もありましたが、もう今回はいいかと諦める事は無くなりました。

個人的な意見ですが、私が受けた入試方法は精神的にとても楽でした。仮に指定校推薦の出願が通らなかったとしても公募推薦、一般入試とまだまだ方法があるため、行きたい学校の枠があるなら迷わず出すことをお勧めします。使えるものは使ってください。また、推薦入試は基本的に周りより少し早い時期に受験が終わります。そこから入学までの期間を有効に使えることも魅力の 1 つです。大学では入学直後に TOEIC や TOEFL などの試験があることが多いです。それに向けた勉強をしたり、大学で引き続き使用する科目の勉強をしたりと今までとは違った時間の使い方ができます。

推薦入試が増えてきている今は、進路に関わらずとりあえず評定を取っておいて損はないです。今まで評定を意識していなかった人もまだ間に合います。諦めず頑張ってみてください。

私は推薦入試を視野に入れて高校生活を送れたことにとても満足しています。私は元々あまり活動的ではなく、推薦を考えていなかったら SSH や生命論などを選択することはなかったと思います。最初は打算的に選択してしまいましたが、どちらも座学では学べないようなことを楽しく学ぶことができました。理由が何であろうと、とりあえず色々なことに挑戦できた高校生活は本当に楽しかったです。

今大学に入学して 1 か月が経とうとしています。大学は SSH や附高祭有志のようなものがあったり、課題がたくさん出たりと意外と附高と似ているように感じます。まだ 1 か月しか授業を受けていませんが、附高で培ってきた経験を少しずつ活かせている気がして、とても楽しいです。附高では他の学校ではできない体験をする機会がたくさんあります。少しでも興味が出たものにはぜひチャレンジしてみてください。

東京医科大学　医学部　医学科（学校推薦型）
６６期

この合格体験記を読んでいるみなさん、こんにちは。合格体験記を書いてほしいと附高から連絡があり、とても驚きました。私の受験方式は少し特殊なので、これから受験を迎える後輩たちに少しでも参考になればいいかなと思い、合格体験記を書いています。

私は東京医科大学医学部医学科に進学しました。私の受験方式は学校推薦型選抜で、定員20名の枠に約100名が受験していました。私が推薦入試を考え始めたのは高校3年生の夏です。それまで一般入試で私立の医学部を受験しようと思っていた私は、十分に成績が伸びずこのまま勉強していて本当に合格できるのかとても不安でした。予備校帰りの電車や夜道で何度も涙が溢れてしまったこともあります。そんな時に予備校で東京医科大学の学校推薦型選抜のチラシを見つけ、これならば自分でも戦えるはずだと思い、必死に対策しました。

東京医科大学には二つのキャンパスがあり、第一学年第二学年が通う新宿御苑キャンパスと大学病院に併設されている西新宿キャンパスです。東京医科大学は医学教育に不満を持った日本医学専門学校（現 日本医科大学）の医学生が総退学し立ち上げられた学校です。そのような歴史もあり、今でも生徒の自主性に任せた医学教育が行われています。その中でも自由な学び系科目が特徴的で、私もアメリカ医師国家資格の同時取得を目指す、USMLEコースを受講しようと考えています。校風が附高に似ていてとても楽しい大学生活を送っています。

試験科目は書類審査、面接、総合問題（数学・物理・化学・生物）、小論文（英語・日本語）で、私の唯一の得意科目である英語を生かすために、小論文の対策に力を入れました。小論文の対策では、毎日BCCやCNNなどの英文のニュースを英語で要約、意見し、それを予備校の講師に添削してもらいました。また、総合問題では生物の知識が全くなかったので、学校から配布されたセンサー生物を解くことで難なく対応することができました。優秀な附高生なら総合問題は何も対策しなくても解けると思います。

入試本番は想定外のことがたくさん起きました。まず試験日前日の23時に試験会場には時計がないということに気づき、腕時計を忘れたことが判明、タクシーを呼んでホテル近辺のドンキホーテに走り込み大急ぎで購入しました。都心の大学で一命を取り留めました。試験は小論文の傾向が大きく変化し、小論文が易化していました。面接でも例年聞かれていた質問は聞かれず、質問形式もMMI方式に変わっていました。しかし、試験対策のおかげで落ち着いて一つ一つの問題に取り組めて、小論文では最後まで書き切ることができ、面接でも自分の言いたいことを言いきることができました。試験を終えた私は新幹線の中でひとり超ハイテンションでした。

合格発表は12月7日で、合格という文字を見て私は号泣しました。父や祖父、祖母家族みんなに電話で合格したことを伝えました。その当日に受験対策のテキストや予備校の資料など全てを処分しました。やっとこの地獄の大学受験から解放されると思うと、いてもたってもいられませんでした。

最後になりますが、附高は最高の仲間と高校生活を過ごせると思います。みんながそれぞれの目標を持っていて、優秀な人たちばかりです。高校の三年間をこのような最高な環境で過ごせたことは人生の宝だと思っています。大学に入ってもう一ヶ月ですが、附高がとても恋しいです。悔いのないように精一杯附高を楽しんでください。

京都大学　工学部　建築学科（学校推薦型）
６６期

私は特色入試で大学に合格しました。特色入試と聞いてもピンとこない人が多いかもしれません。実際に大学に入ってから特色入試の存在を知ったという人や聞いたことはあるけれど中身は知らなかったという人がよくいます。しかし、特色入試を受けることで一般入試において不利になる点があるわけではないため、特色入試を受けることで、単純に合格するチャンスを一つ多くすることができます。私の合格体験記がこれから受験する皆さんに特色入試という存在を知ってもらい、志望校や志望学科に合格する手助けになればいいと思います。

私が特色入試の受験を検討し始めたのは高校二年の冬あたりです。受験校を決めてこれからの受験計画を立て始めたときに特色入試も受けてみようかなと考え始めました。私の受験した学科では必要な書類が志望動機などをまとめたものと高校時代の科学に関する活動について書いたものの二種類で、それらの書類と共通テストの点数で合否が決まるシステムでした。なので二次試験の勉強の妨げにもならないと思い、特色入試を受験することに決めました。私が実際に特色入試に向けて準備を始めたのは高校三年の夏休みです。とは言っても実際に書類を書き始めたわけではなく自分の志望動機や高校での科学に関する功績について何を書くかをぼんやり考えていたぐらいでした。実際には九月に書き始めました。高校への提出が十月頭（大学への提出の一か月前に高校への提出が求められます）だったので実質一か月での準備となりました。しかも、提出書類はすべて一人で適当に書いて、ハイ提出、という訳にはいきません。自分で書いたものを先生に添削してもらい書き直してまた提出して…を繰り返して完成させていきます。そのため正直一か月で仕上げるのは結構大変でした。これから受験する皆さんはもう少し早めから準備しておくと落ち着いて書類を完成させることができると思います。ここで書類に書く内容について少し書こうと思います。大学からの指示は【顕著な活動実績の概要】を書くというものです。顕著な活動実績ってなんやねん!と思うかもしれません。私もそう思いました。これまでに合格した先輩が書いたものなどをネットで検索すると全国大会優勝とかものすごい実績が出てくるのでこれくらいしてないとだめなのかと感じてしまうかもしれません。けれど、必ずしも合格する全員がそんな内容を書いているわけではないことを知ってほしいです。これまでの高校生活で一つでもこれだけは人一倍頑張ったといえる活動を考えてみてください。そして、何を目的にどのように行動したのか、その活動を経て自分が一体何を得たのかについて考えてみてください。それらを書くだけでも十分な書類が完成します。私は特色を考え始めたのが二年の終わりでこれからすごい実績を上げることはできないと分かっていたのでそれまでの活動について結果だけでなく得られたものや頑張りに注目して書類を書きあげました。ただ注意してほしいのはグループでの活動を書く際は全体として書くのではなくその中での自分に注目して書くことです。私はその部分を何度も先生に注意されました。書類を提出したら最後は共通テストです。どんなに書類が完璧でもここで基準を下回ると一発アウトです。頑張って勉強してください。私は塾の先生に言われた共通テストは一か月前から、というものを律義に守りぎりぎりになって焦ったので特色を受ける皆さんは早めに共通テストの勉強を進めていってください。

最後に、特色入試は合格チャンスを増やせるため受け得です。ちょっとでもいいなと思ったら本格的に考えてみてほしいと思います。しかし、これだけは覚えておいてください。二次試験の勉強もちゃんとすること。チャンスが増えるといっても本命は一般入試です。書類の作成だけに集中するのではなくしっかりと勉強して合格をつかみ取ってください。頑張ってください!

国際教養大学　国際教養学部　国際教養学科（総合型選抜）
６６期

皆さん、こんにちは！私は国際教養大学に総合型選抜で合格し、今は新生活を始めつつ秋田の地でこの文章を書いています(笑)　まず初めに、国際教養大学について少し紹介したいと思います。まだ創立20周年という比較的新しい大学ということもあり、附高からこの大学に進学したのは私が初めてです。授業は英語で行われ、24時間開いている綺麗な図書館があることでも有名なので知っている方もいらっしゃるのではないでしょうか。英語を極めたい！という方には本当にオススメの大学です。

さて、私が進路について考え始めたのは高校入学してすぐくらいからでした。私は「せっかく四年間学ぶなら自分が学びたいことがある大学に行きたい！」と思っていました。しかし、高校1年生の時の私はまだ自分が将来したいことが特に見つかっていませんでした。ですから様々なことに挑戦したり、考えたり、大学について調べたりして自分が何に興味があるのかを見つけるための「材料集め」を始めていました。

元々英語が好きだったこともあり、国際教養大学に関しては親が「こんな大学あるよ～」と教えてくれたので、その学校の存在は高1の時に知りました。高1の時は国際方面に興味がありましたが、高2でデザイン方面にも興味を持ち始め、高3の夏まで全く方向性の違うその二つで進路を決めきれずにいました。しかし高3の7月末にあった進路面談で、当時の担任の先生が「北田さんは執行部もやってたし、人と関わる方面が向いていると思う」とアドバイスくださいました。その言葉が自分の中にスッと入ってきて、今まで自分が参加してきた活動なども踏まえ、国際方面に進路を決定しました。進路決定は自分の意思だけでしなければならないと思っていましたが、自分のことをよく知っている先生や家族のアドバイスを聞いてみることも大切だと思わされました。そこからは9月の出願に向けて急いで志望理由書等の準備を始め、無事試験と結果発表を経て今に至ります。

私が受験した総合型選抜では志望理由書提出に加え、英語小論文・面接(日本語と英語)を受けなければなりませんでした。英語小論文対策は8月から、面接練習は入試2週間前から始めました。10月半ばの入試に向けて8月から準備し始めて合格したと聞くと、推薦入試は楽だと思う方もおられるかと思います(私も準備し始める前まではそう思っていました)。が、実際はそう簡単ではありませんでした。先輩から「附高生は面接に強いから大丈夫」と聞いていたので、そう信じて面接練習に臨みましたが全然上手く喋れず…入試前の一週間は毎日泣きながらひたすら練習していました。志望理由書に関しても、自分の将来のビジョンも含めつつなぜその大学で学びたいのかということを考えては書き直すことを繰り返す日々で大変でした。しかしこの経験のおかげで大学で勉強する意義を今自分の中で軸として持つことができているので、自分が将来やりたいことを明確にする良い機会でした。推薦入試に向けて準備したのは確かに2ヶ月ちょっとだけですが、合格できた理由にはそれまでの活動や経験が大きく関係しているのかなと改めて思います。まず出願条件に英検準1級を取得していることとありました。高1の時に国際教養大学に少し興味は持っていたので、もしかしたらこの大学を志望することになるかもしれないこと、英検は持っていて損はないと思ったことから、英検の勉強を高1の夏から始めました。私は高1の時点で英検を一度も受けたことがなく2級の取得から始まりましたが、高3の春には無事準1級を取得することができました。また、高1の頃から推薦入試は視野に入れていたので(中学の時にも生徒会やクラブ部長をしていたことから、自分で推薦入試向きの人間かなと早くから思っていました)、「高3になってからあの活動に参加しておけば良かった」とならないように、高1の時から積極的に活動に参加することを心がけていました。

私は今まで自分がやりたいと思ったことは何でも取り組んでき(たつもりです笑)ました。附高では自治会執行部を1年間務めたり、全行事に全力で参加したり、ピースプロジェクト等の活動に参加したり、文系だけど高1の時にSSHに取り組んだり。学校外ではボランティアに参加したり、動画作成に取り組んだりしました。小さなことだったとしても、「あ、面白そう」とか「やってみたいかも」と少しでも思ったことには手遅れになる前に(?)手を伸ばしてみてください。辞めるのはいつでもできますが、一歩踏み出すのは好奇心が芽生えた時にしかできないと思います。

最後に。勉強と同じく、推薦入試に向けた準備も日々の積み重ねだと思います。本番直前は緊張して頭がいっぱいになって不安になるかもしれませんが、自分を信じて自信を持って。自分がこれまで準備してきたことに自信を持つためにも、今できる最大限のことに皆さんが取り組むことができるように祈っています。

大阪大学　法学部　法学科（総合型選抜）
６６期

私は総合型選抜で大阪大学の法学部法学科に合格しました。これから述べることは、もしかしたら自分には当てはまらないと思う方がいるかもしれません。ですが、３年間の附高生活で何が起こるかはわかりません。最後の最後になってやっぱり推薦で受けてみたい！と思ったら、ぜひこの体験記を参考にしていただければ幸いです。

私が推薦を意識し始めたのは中２のときでした。附高に入ってからは様々な活動をするわけですが、私は推薦を受けるために活動してきたわけではありません。私は高校入学当初、文学部に入って教師になろうと考えていました。もし文学部の推薦を受けるためだけに活動するなら、文学を読んだり、作文や文学研究のコンテストに応募したり、教師になりたいならそういうプログラムに参加してみたりするべきだったでしょう。ですが私が入学して最初に応募したのは、高校生模擬裁判選手権でした。それまで別に法分野に触れてきたわけでもありませんでしたが、当時の私は弁論に興味があり、何かの大会やコンテストに出てみたかったので、とりあえず出してみよう！という気持ちで応募したのです。その後も、私は自治会活動やSSHなど興味の赴くままに活動しました。二年目の模擬裁判で優秀賞を受賞したとき、私は法曹の道に進みたいと思うようになりました。

大阪大学を目指そうと思った理由は二つ、なるべく高いレベルの大学で学びたかったことと、大阪大学法学部の総合型選抜があまりに私に最適な入試方法だったからです。評定平均値や別途試験は不要なこと、一次審査がないこと、面接・書類・共通テストの総合得点で決まること、他学部に比べて定員が多いこと。これらは成績や学業面に不安があった私にとって最高の条件でした。

受験勉強では共通テスト対策を中心にしていました。一般入試でも使いますし、面接や志望理由書には経験を積んできた分ある程度自信があったからです。幸い私の通っていた塾には推薦のエキスパートである先生が在籍されていて、志望理由書の書き方や面接対策などのサポートを受けることができました。附高の先生方にも面接の練習にお付き合いいただいたり、志望理由書の添削をお願いしたりしていました。今から思うと、その対策がなかったら合格していなかったと思います。もちろん私の今までの経験や大学への志があったからこその合格ですが、総合型選抜もあくまで入試なので、他の入試方法同様傾向があります。大学が受験者のどんなことを知りたいと思っているか分析できていたことも、合格の大きな要因です。

受験において一番大切なことはなんでしょうか？私は、自己分析だと思っています。自分は何をしたくて大学に行くのか、自分には何ができるのか、自分に最も適した方法とはなんなのか、自身を振り返ることは戦略面でも精神面でも大切なことだと思います。推薦において、自己分析は特に重要です。推薦を受けるからには、何か特別な経験や目立つ実績が必要なんじゃないかというイメージがあるかもしれませんが、実際それらのことは自己分析がなっていないと何の役にも立ちません。逆に言うと、自己分析がしっかりとできるなら、そういったものは特に必要がないということです。もちろん沢山の経験を積んでいた方が自分のやりたいことが分かりやすいし道も見つけやすいと思います。ですが、受験を間近に控えて時間の無い高校３年生でも、志さえあれば十分合格の可能性はあります。最後まで諦めず、自分にとっての最善の道を探し続けてください。

京都大学　工学部　情報学科（前期）
６６期

私は第一志望としていた京都大学に合格できましたが、高３でも行事の委員やSSHなどの課外活動にも力を入れて、附高での生活を楽しんでいました。同様に受験勉強をしながら附高ならではの課外活動も続けたいという方の一助になればと思い、この文章を書かせていただきます。

高１・高２の時は、授業で分からないところがあったら納得がいくまで考えたり質問したりして、分からない部分を残さないようにしていました。基礎を抜けなく積み上げることで、入試問題に対応できる素地を整えられ、早い段階から過去問を解いて得点力を伸ばすことができました。これは合格に大きく貢献したと考えています。とはいえ当時は受験をあまり意識しておらず、授業以外の時間のほとんどを部活や有志活動、SSHの研究といった附高ならではの活動に費やしていました。そのおかげで充実した高校生活になり、大学やその先での生活に活きる良い経験ができたと感じています。

高３になってからも受験一辺倒にはせず、食事や入浴はリラックスして楽しみ、課外活動や趣味の時間もとるようにしていました。そのおかげで精神は安定しており、勉強時間には最大限集中することができました。さらに睡眠時間は絶対に削らないようにし、少しでも体や心に異変を感じたら早く寝て深刻になる前に治すようにしていました。このように受験期に心と体を健康に保つことを最優先したことも、合格の一因だと思います。

私は高２まではずっと行事や課外活動に多くの時間を割いてきたので、演習量が足りていないことが課題でした。そこで12月ごろまでは過去問を時間無制限で考え抜く練習をしていました。もちろん本番ではある程度の処理速度も要求されますが、時間をかけてでも解けるようにならないことには処理速度は上げられないので、まずは自力で解けるようにすることを目標にひたすら過去問を解いていました。ここで市販の問題集ではなく過去問を選んだ理由は、京都大学の入試ではどのような力が求められて、どのようにしてそれに応えればよいかを体に染み込ませるためです。これを繰り返すことで徐々に処理速度も上がっていき、年明け頃には本番で求められる速さで解けるようになってきました。

また偏差値は気にせず、昨年度の合格者平均点を目標に勉強をしてきました。その理由は大きく分けて２つあります。１つめは、偏差値はライバルの状態によって変動するのに対し、昨年度の合格者平均点は変動しないからで、２つめは、偏差値は測定できるタイミングが少ないのに対し、合格者平均点との差は過去問を解くたびに測定できるからです。偏差値を上げようと思うとライバルよりも勉強を頑張る必要がありますが、人間は自分が知覚できない存在を恐れるものなので、どのくらい勉強しているか分からないライバルの存在を考えると不安になります。また秋の模試が終わって受験直前期になると自分の偏差値を知る機会がなくなり、より一層不安が募るようになると思います。一方で過去問を解いた際の合格者平均点との差は自分の頑張りによってのみ決まり、過去問を解くたびにその差を知ることができます。私は合格者平均点を目標にすることで、勉強するにつれて目標との距離が縮まっていくのを実感することができました。そのおかげで自信をもって受験でき、合格につながったと考えています。

これまでの話に総じて言えることですが、私は勉強方法を自分なりに考えるようにしていました。自分で決めたことだからこそ、責任をもって最後まで勉強を続けられたと考えています。人によって現状の得意不得意や忙しさは違うので、特に受験勉強をしながら課外活動をする方は様々な情報を参考にしつつも、勉強法の最終決定は自分ですることをお勧めします。みなさんのご活躍を心からお祈りしています。

大阪大学　理学部　生物科学科（前期）
６６期

私が受験勉強を本格的に始めたのは高３の春休みです。それまでは、受験が迫ってきているということは分かっていてもなかなか勉強しようという気になれず、自分は将来何をしたいのかという答えのない問いに時間がつぶされていく毎日でした。このまま勉強から逃げていても何も始まらないという気持ちを、やっと行動に移せるようになったのがこの時期です。毎日１２時間くらい勉強している子に陰ながら刺激を受け、勉強時間だけでもその子に追いつきたいという思いで頑張るようになりました。

このスタートはおそらくかなり遅いほうだと思います。特に理科は、最後まで周りから遅れつづけました。もし、私のように周りより遅れているという子がいるのなら、一番に伝えたいことは焦らないで！ということです。最終的な目標は受験に間に合うこと、そしてギリギリでいいから定員内にすべりこむことです。いくら遅れていても、受験で出題される範囲には限りがあります。頑張ってさえいればきっと間に合うので、いつか習得する日を楽しみに、今は地道に頑張ってください。

ここで、受験に向かうにあたって、皆さんに大事にしてほしいことについていくつか書きます。まず１つ目は、最初は分からなくて当たり前だと思って挑むことです。周りの頭がいい人たちを見ていても、最初は結構苦戦するんだなと思うことがよくありました。分からないからといって諦めるのではなく、そういうものだと受け入れて、分かるようになるまで繰り返すというのが受験勉強には大切なのだと思います。私も直前期になって前に何度か解いた問題を解いてみると、最初はあんなにわけがわからなかったはずの問題が自分で解けるようになっていることに感動することが何度もありました。また、英単語に関しては、二度や三度で覚えられるとは思わず、何十回でも見てやるぐらいの気持ちでいるのがいいと思います。いつの間にか英単語帳をほとんど覚えていたときには、これまた感動しました。

２つ目は、何があってもポジティブに考え直すことです。私は割といつも楽観的で、模試が悪かろうとそこまで落ち込むこともなくやっていたのですが、そんな私も共通テストの二週間くらい前に、かなり追い詰められて精神的に辛くなった数日がありました。その時に助けられたのが、この発想の転換でした。分からない問題に出会うたび、ミスをするたび、この時期に自分の分かっていなかった部分を再確認できるなんてありがたいと思うようにして、すべてを吸収すべく、スマホのメモ帳にメモするようになりました。これが本当に魔法みたいに効いて、追い詰められていた状態から回復することができました。また、私は不運なことに共通テストの前日にコロナに罹ってしまい、本試を見送り追試を受けるという経験をしました。みんなが共通テストを終えて二次試験の勉強をし始めている中、一人共通テストの勉強をし続けるのはなかなか辛いものがありました。それでもなんとか乗り切れたのは、なんとしてでもポジティブに考えようという意志を持ち続けられたからだと思います。

３つ目に、残りの高校生活を大切にしてください。附高での３年間は、本当にかけがえのないものです。私はとにかく附高が大好きで、高３になっても最後の附高祭、音祭を頑張りたいという気持ちが捨てられず、行事前は行事のことばかり考えていました。私自身受験生が行事をやることに不安もあったのですが、経験してみての感想は、行事と受験勉強は、両立させてやるという強い意志があれば両立できる、ということです。私の場合、音祭期間のほうが何もない月より総勉強時間が長くなるという不思議な現象が起こったくらいには勉強のやる気が上がりました。また、直前期でも、学校に行きたいという気持ちがあるのなら、行くべきだと思います。生活リズムも整い、なによりいい息抜きになります。

最後になりますが、一番大事なことは、振り返った時に自分は自分なりに頑張ったなと思えることだと思います。１日１日を大切に、最後まで頑張ってください！応援しています！

京都大学　文学部（前期）
６６期

進路に関する資料をご覧のみなさん、こんにちは。私は京都大学文学部に前期日程で合格しました。具体的な勉強法などは塾や先生に聞いたほうがためになると思いますので、ここでは、私の附高の３年間の経験を元にして合格体験記を書かせていただきます。あくまでも数ある合格体験記の中の一つとして、一個人の経験・意見として目を通していただければ幸いです。

そもそも、私は将来の夢というものがありませんでした。というより、大学に進学した今であってもまだ夢は特に決まっていません。ただ、興味のあるものに惹かれて進んできた結果、今の大学にいる、というのが現状です。もしかしたらこれを読んでいる皆さんの中にも明確に夢が決まっておらず不安だという方がいるかもしれません。しかし私は、今とにかく興味のある方向へ進んできて良かったと思っています。そもそも、どれだけの人が自分の 10 年後、20 年後の姿を正確に描き出し、その通りに人生を歩むことができるのでしょうか。恐らくほんの僅かではないか、と思います。理想を目指して挫折した、ということだけではなく、他にもっと興味のあるものが見つかったという場合もあるでしょう。ですから、明確な夢がなかったとしても、それ自体を悩む必要はなく、ただ興味のあるものへと進んでいけば良いのではないでしょうか。私の場合、興味のきっかけを与えられたのは、附高の授業だったといえます。附高の授業は、文理にかかわらず、様々な授業を共通で受講することになっています。もしかしたら、嫌気がさしている方もいるかもしれません。しかし、よく耳を傾けて理解しようと努めれば、その面白さに気づくこともあるのではないかと思います。そして、新たな自分の興味に気づくかもしれません。私は、すべての授業に積極的に参加し耳を傾けていました。どの授業も興味深く、内容も深遠なものばかりだったといえます。その中でも私が興味を持ったのは地理の授業で、地域それぞれの特徴や問題などに興味を持つようになりました。そして京都大学文学部への志望を最終的に志したのは、高 3 の夏頃のことでした。

次に、私の附高 3 年間についてのあらましについてです。私は高 1、2 の間は、受験勉強をほとんどしておらず、本格的に受験対策をし始めたのは高 3 になってからのことでした。私は附高祭有志に所属しており、附高祭の計画を皆で練り上げるのに忙しく、委員会が発足して舞台発表委員長となってからはさらに多忙を極めたためです。附高祭が終わった後も、音祭の練習に参加したり、また皆と放課後に遊んだり、附高での生活を満喫していました。ただ特に目的もなく、楽しい、面白いと感じるものに取り組んだだけでしたが、それによって得られたものはかけがえのないものだったと思います。特に附高祭が終了した際の達成感や幸福感は、筆舌に尽くしがたく、この上ないものでした。もしかしたら、受験のために行事などの参加を諦めて勉強に集中しようと考えている方もいるかもしれません。しかし、附高には行事を始め、自治活動、SSH や、友人関係も含めて様々な魅力があります。せっかく附高に入学したのだから、受験のことばかりに集中するのではなく、附高で体験できる濃密な 3 年間を最大限に味わうべきだと思います。私が語っても到底言い尽くせないので、どれほど附高が魅力的な場所なのかは、皆さん自身で体験していただければ幸いです。

最後まで読んでいた皆さん、ありがとうございました。様々なことを書きましたが、参考にしてもしなくてもどちらでも構いません。皆さんの信じる方向へ進んでいただければ、と思います。頑張ってください。

北海道大学　獣医学部　共同獣医学課程（後期）

６６期

成績上げたいけど、一日十時間勉強するとか無理〜、だれかコスパいい方法教えてって人！！ 私は、同じ学部に合格した誰よりも勉強時間が短い自信があります。ぜひ参考にしてください。でも、そんなことをいうずぼらさんがこれを最後まで読むとは思わないので、まず結論から言います。

その１　自分に合った生活リズムを保つこと（時間なくても睡眠時間は削らない）

その２　スキマ時間を活用すること

その３　楽しく勉強すること

まず一つ目。自分に合った生活リズムを崩さない！ 私は、九時寝五時起きで生活していました。八時間睡眠…とても受験生とは思えないですね〜。九時寝五時起きに落ち着くまでいろいろやってみたので、それを共有します。まず、睡眠時間を八時間から削ってみました。すると、途端に計算ミスが増え、暗記物が覚えられなくなり(かつ思い出せないし)、集中力が落ちたので、やめました。次に、睡眠時間は八時間のままで、十時寝六時起きにしてみました。私はこれでもいけるかな〜と思っていたのですが、予想に反して授業中すごく眠くなってしまいました…。（どちらもリズムを変えて最初の数日が不調になるのは当たり前なので、一週間ほど続けました）よって結論。自分に合った睡眠時間を見つけて、それを変えない！！いったん実践してみてほしいです。集中力も上がりますし、元気になります。勉強は集中して、できるだけ一回で理解・暗記していったほうが効率いいので！

二つ目。スキマ時間を活用すること！ 勉強早く終わらせたら自由時間がふえる〜ということで、私は勉強時間をなるべく短くしようと努めていました。朝起きて顔を洗っている時間。通学で歩いている時間。食べている間の時間。生活していくうえで絶対にかかるこの時間に、今日やることの一個でも終わらしたいよなぁと思って、私はよく英単語やネットフリックスの英語音声を聞いていました。スキマ時間って探したら意外とあるので、「座って勉強するのは疲れるから最小限にしたい…でも成績も大事…」みたいな人におススメです。

三つ目。楽しく勉強する！！これ、マジで大事。人間楽しいことはしたくなりますからね！ってことで、私がやっていた勉強楽しくする方法をご紹介！

1, 解けなかった問題に付箋を貼る→解けるようになったら外す→その付箋で「するめ」って文字を作る→完成したらするめ（あたりめ）ゲット！

2, シャーペンで書くのに飽きたら、万年筆とか、羽ペンで勉強

3, やること終わらせたらちゃんと遊ぶ

です！応援してます。

神戸大学　国際人間科学部　発達コミュニティ学科（後期）
６６期

私は前期京都大学教育学部に不合格、後期神戸大学国際人間科学部発達コミュニティ学科に合格しました。現役で第一志望ではない学校を選択するなんて考えられないかもしれません。私もそう思っていた一人でしたが、合格する確証のない中更に一年受験勉強をする自信もやる気もなく、京大不合格になって初めて自分が現役志向であることに気が付き、進学しました。

京大に落ちてしまった原因の考察と、神大後期のアドバイスを伝えようと思います。

先日送付された得点開示を見て改めて考えると、京大二次試験の敗因は英語と古文です。英語は安定する科目だと言われていますが、私の場合得意科目ではありますが全然安定しませんでした。単語はシス単、鉄壁を中心に勉強して自信があったのですが、構文を見抜く力がありませんでした。この力を得るには長年の努力が必要で、苦手であることに気づいた時にはもう手遅れでした。みなさんはいち早く自分の苦手分野を見つけ出して対策して下さい。古文については、単語ばかり詰め込んでいたことです。例文とともに単語を覚えることで自然な訳ができ、文法にも慣れることが出来ます。むやみに勉強するのではなく、試験で「使う」ための勉強を常に意識すべきでした。

神大後期は、教育・人文学系の小論文があります。小論文の対策をがっつりしている現役生は多くないので、前期試験が終わってからの２週間ほどでどれだけ頑張れるかが勝負です。私は前期試験の手ごたえが全くなかったのにも関わらず、なかなかやる気が出ず、それまで１日１０時間勉強していたのに、前期試験の翌日は２時間しか勉強出来ませんでした。後期試験に向けていかに早く切り替えるかが重要ですが、私にとっては受験勉強史上一番と言っても過言ではないほど辛い２週間でした。これまで勉強を共に頑張ってきた友達が遊んでいる様子をインスタで見てうらやましく思ったり、前期の合否がまだなので変に期待してしまったり、すでに合格している私立でいいかと思ったり、早々に浪人することを決めた友達と一緒に浪人しようかと思ったり。このような揺れ動く精神様態の中で小論文を書くモチベーションを保つには周りの全ての人の支えが必要不可欠でした。私の家族や塾の先生は諦めずに後期試験までやりきってそれから浪人してもう一度京大をめざすか私立にするかを考えたらいいと励ましてくれました。何とか気持ちを持ち直し、150分で1000文字の小論文を１日に２本書くことにしました。そのために、神大のアドミッションポリシーを読み込んで理解する、教育・人文学系小論文のテーマの参考書を読む、志望学部に即した自分しか持っていないエピソードを文章にするということをしました。思いがけず役に立ったのは、生命論の授業です。受験科目に直結しないが面白そうだと思い選択したものの、受験直前まで活動があり大変でした。しかしラットの生命に向き合った経験や、夏にハンセン病施設や原爆ドームを訪れた時の経験が、教育的テーマを論ずる際の具体的で私オリジナルのエピソードになりました。受験は１人では乗り越えられません。ぜひ附高の先生方にも甘えて下さい。添削を３人の先生方にお願いしたことで、文の構造から内容面まで様々な方面からのアドバイスをもらい、どんなテーマが来ても書ける自信がつきました。最終的には、「私の第一志望って神戸大学だったのかも」と思うほど前向きな気持ちで後期試験に臨めました。

神戸大学に入学して友達やサークルなどすべてが新しく日々がとても充実しています。結局京大二次対策は役に立ちませんでしたが意味がなかったとは思いませんし、第一志望を京都大学にしてストイックに頑張れる自分が見つかりました。最後までやりきったからこそ納得のいく進路を選択し、楽しい学生生活をスタート出来ています。自分が納得できるような受験勉強をしてほしいです。

大阪大学　工学部　応用自然科学科（学校推薦型）
６５期

私は高校時代を研究活動や部活動に費やし、浪人をして１年間勉強し、大阪大学工学部の推薦入試に合格しました。この合格体験記では、私が推薦入試を受けるに至った経緯や、高３・浪人期の過ごし方などについて書かせていただきます。

まず、私が浪人を視野に入れ始めたのは、高３の７月辺りでした。プルーフⅢを履修していた私は、当初６月のプルーフⅢ報告会で研究活動を終える予定でした。しかし、予想以上に研究成果が認められた結果、浪人覚悟で、高校時代にしか出来ないことに挑戦してみようという考えを基に、８月にあるSSH 全国大会への出場を決めました。全国大会では予想以上に高い評価を受け、他の研究発表会の誘いを受ける結果となりました。調子に乗った私は、受験のことなど忘れて、更に３つの研究発表会/論文コンテストに出場しました。そのまま ISEF（International Science and Engineering Fair）という世界大会にも出場することになり、１月から研修が始まりました。そのためか、勉強と研究活動の両立が叶わず、共通テストで目標点に届きませんでした。そして、当時出願していた東京大学の推薦入試に不合格となりました。その際、高校時代の頑張りが全て否定された気になり、勉強に手がつかなくなりました。大阪大学の２次試験にも落ち、浪人が確定しました。

浪人確定後の私は、一般入試のみでの受験を考えていました。推薦入試をまた受験して、勉強の時間を削ってたくさん準備しても、現役時のように落とされるかもしれないということが怖かったからです。しかし、５月までは ISEF の準備で忙しく、東京研修などで予備校を休むこともありました。受験勉強に関しては幸先が悪く、一般入試のみの受験に不安を覚える中、５月に ISEF で２つの賞を受賞しました。それがきっかけで、私はもう一度推薦入試を受験することに決めました。世界大会での受賞を受験で使わないのは、流石に勿体ないと考えたからです。ISEF を終えてからは、推薦入試の受験校探しと、遅れていた分の勉強を両立して行いました。大阪大学工学部への出願を決め、書類や面接準備を行う中、周りの受験生は勉強のラストスパートに突入します。そこで焦らずに落ち着いて準備出来たのは、高３時に既に焦りを経験していたからだと考えています。面接も共通テストも２度目なので落ち着いて受けることができ、共通テストでは目標である８割を超え、無事に推薦入試に合格しました。

話は変わりますが、何らかの出来事を思い出す際、最初に思い出すのは当時の感情であると聞いた事があります。だからこそ、どんな活動でも楽しむことさえできれば、良い思い出になると私は考えています。どんな活動にも、辛いことや苦しいことは付き物です。そこで辛いと思ってしまうのではなく、楽しい所を探し、抽出して、思い込みでもいいので楽しいと口に出してみてください。すると、本当に楽しく思えてきます。せっかく何かをするなら、楽しんだ方が絶対にお得です。私はそうやって、高校時代の全ての活動を楽しんできました。

高３時に、受験勉強より研究活動を優先する選択を取ったこと、私は全く後悔していません。研究活動を楽しみ、高３の１年間が良い思い出で詰まっているからこそ、不合格になっても、自分の選択は正しかったと思えたのです。また、多くの人が苦しむ浪人生活ですが、私は浪人生活がどうだったか聞かれると、即座に楽しかったと答えます。これも、辛いことより楽しいことに目を向けたからだと考えています。勉強をするにせよ他の活動に打ち込むにせよ、楽しんで行えば、結果がついてこなくても後悔はしないはずです。ぜひ、このことを頭の片隅にでも置いて、実践してみてください。